■トピックス

表紙の写真　今年は、記録の上で日本人が初めてカナダに渡航してから百年目にあたる。一世たちの苦難、一九三〇年代から戦争中にかけての屈辱、そして戦後における発展と新たなる悩み――。第二世紀はどういう時代になるだろうか。今号の写真は、一部を除いて、「日系カナダ人移民百年祭記念写真展実行委員会」のご好意で貸していただいた。

カナダにおける日系百年の歴史
百年祭委員会の記録から

カナダ日系移民百年祭委員会は、今年一月、日系人史における過去百年の主なできごとを次のようにまとめた。

△**一八七七年**　永野萬蔵が日本人として初めてカナダに移住した。

△**一八八五年**　日本移民がはじまり、鉱業、漁業、鉄道敷設、伐木及び農業に従事。

△**一八八七年**　最初に日本婦人が移住、家庭生活がはじまった。

△**一九〇一年**　日本人の数がはじめて人口調査表にのせられた。日系人口は四、七二八人でその九七％がブリティッシュコロンビア州に居住。その他はユーコンに八四人、平原州、オンタリオ、ケベック、ノバ・スコシア各州に住んでいた。

△**一九〇二年**　本間留吉（帰化人）が参政権問題で敗訴。

△**一九〇七年**　日本移民が急増し、バンクーバー市で東洋人排斥暴動がおきた。

△**一九一七年**　約二百名の日本人義勇兵が欧州戦場に出征し、五十四人が戦死。

△**一九三一年**　日系古兵たちに参政権が付与された。

△**一九三六年**　日系市民協会が誕生し、日系代表団がオタワに出向いて参政権を要請したが失敗に終った。

△**一九四一年**　真珠湾攻撃。日系人にとって暗黒時代であった。

△**一九四二年**　二万二千人の日系人は西部沿岸から総立退きをうけた。

△**一九四五年**　英本国の要請で、カナダ政府は約百五十名の日系人を軍人として採用した。

△**一九四九年**　日系人にとって平常化となり、すべての規制は解除され、ブリティッシュ・コロンビア州で参政権も付与された。大部分の日系人はそれぞれ再定住したところに落ちついた。

△**一九七七年**　日系人口は合計約四万人。カナダ全体に散在しているが、特にトロント・ハミルトン地域には約一万五千人が集結しており、バンクーバー付近には約一万人、南アルバータ州には約二千五百人が住んでいる。三世の約九〇％は非日系人と結婚する傾向がつづいている。

日系人移住百年祭の主な行事

●踊り大会　各地域でお祭りや踊りコンサートが開かれるほか、日系カナダ人のグループがトロントやオタワ、バンクーバーなどで公演する。

●敬老会　戦前カナダに移住した一世および一九一一年以前に生れた二世日系人すべてに、百年祭のマークと詩を刻んだ湯のみとメダルを贈呈し、日系パイオニアの労をねぎらう。

●図書館展示計画　全国各地の図書館で日系カナダ人の歴史を紹介する展示会を開く。

●日本映画祭　小津、溝口、小林、黒沢らの作品十六点を、モントリオール、オタワ、トロント、バンクーバーなどで放映する。

●写真展　五月十六日にオタワで幕開けした写真展「日系カナダ人　一八七七年―一九七七年」を、全国各地で巡回展示する。日本では、読売新聞社が五月十九日から二週間、大阪・梅田の阪神百貨店で展示したあと、長崎県などで展示する計画を進めている。

また、日系人史百年を記録した記念アルバムも発行される。

そのほか、刀剣展や日本の伝統芸能などの紹介、柔剣道大会なども各地で予定されている。

●詩集　日系カナダ人による詩を収集編さんする。

●講演会・セミナー「戦時措置法」（マクマスター大学）、「日系カナダとは何か――三世セミナー」（ハミルトン市多様文化センター）、「カナダにおける日系人の経験」（ウィニペグ）、「われわれの今後・青少年大会」（トロント市日加文化センター）などが四月から七月までに予定されている。

●その他　日加週間（ハミルトン市。日本人および日系カナダ人の生活全般を紹介する）、ヘリテージ・デイ（トロント。日系人をはじめ、カナダ在住の諸民族の文化を紹介する）、フォーク・アート展（セント・キャサリンズ。日本の民芸品、武道、盆栽などを紹介する）、パウエル街祭り（バンクーバー。日本の民芸品、踊り、武道など）、ヘリテージ・デイ（レスブリッジおよびエドモントン）。

カナダ日系人史が新たに二冊

日系カナダ人については、戦前「加奈陀同胞発展史」（大陸日報社、一九〇九年）、中山訊四郎著「加奈陀同胞発展大鑑」（一九二一年）、戦後は佐藤伝、英子共著「子どもと共に五十年――カナダ日系教育私記」、鶴見和子著「ステブストン物語――世界の中の日本人」、蒲生正男編「海を渡った日本の村」などが出版されているが、このほど新たに二冊が刊行された。

一冊はケン・アダチ著「ザ・エネミー・ザット・ネバー・ワズ」（仮想敵国人）。全加日系カナダ人市民協会が十数年前に日系カナダ人正史を企画し、トロント大学やマリーランド大学で英語を教え、日系紙「ニュー・カナディアン」の編集長をへて現在「トロント・スター」紙で評論活動をしているケン・アダチ氏に執筆を依頼して、昨年同協会から発行された。英文四五六ページで、一般寄付金とカナダ政府の援助資金で完成された。日本人によるカナダとの最初の接触から現在までを多くの資料を使って詳細に記録・描写している。もう一冊は、新保満著「石をもて追わるごとく――日系カナダ人社会史」（大陸時報社、一九七五年）。トロント・ウォータールー大学の新保満教授（社会学）が「日系一世に焦点をすえて」（序章）、初期の移住者の生活、初期の女性移民の生態、日系人に対する排斥、第二次大戦中の総移動などを社会的な分析を加えながら描いている。著者はこの本を「いわゆる日系人正史」ではなく、「社会史の試み」と称している。三二七ページ。

スズキ、宮崎氏にカナダ勲章
日系人二人の受賞は初めて

カナダ政府は、このほどブリティッシュ・コロンビア大学の動物学教授で遺伝学の権威デビッド・スズキ博士（三世）にカナダ勲章「オフィサー位」を、またブリティッシュ・コロンビア州リルエットで医師として永年貢献した宮崎政治郎氏（滋賀県彦根市開出今町出身、七十七才）に同「メンバー位」を授与した。日系カナダ人が同時に二人もカナダ勲章を受けるのは前例がない。